

鳴門教育大学同窓会会報

2026年5月吉日発行

同窓会の広がりをお願い

鳴門教育大学同窓会会長 横 畠 道 彦

常々、強い繋がりと思い交わりをもてております鳴門教育大学同窓会員の皆さまのもとに2026年度の会報をお届けできますことをうれしく思っております。

今回の会報作成にあたりましては、全国11の支部長さんから貴重な玉稿を寄稿いただきました。また、土井榮次事務局長には、編集作業等にお力添えいただきましたことに感謝申し上げます。

さて、度重なる災害等で厳しい状況にある地域、紛争の終息に見通しがつかない海外の地にお住いの同窓会員の方々がおられます。一日も早く世界中に安寧な日々が訪れることを願います。

この一年の同窓会を振り返りますと、4月の入学式後のオリエンテーションでは、新入生に同窓会の案内をすることができました。6月の総会においては、大学と一体となって推進してきた「未来の教師を育む教室づくり」に、多くの同窓生から賛同を得ることができました。8月には、都道府県支部連絡協議会を鳴門の地で開催し、全国の支部長さんをはじめとした関係者の皆さんにお集まりいただき、各都道府県支部の現状や課題、同窓会への要望等をお聞かせいただきました。3月の学位記授与式では、卒業生や修了生等の皆さんに祝辞と同窓会及び支部活動への積極的参加をお願いいたしました。

また、令和7年6月から令和8年2月にかけて、全国11支部のほとんどで支部総会・懇親会が開催され、世代を超えた交流がなされたところです。都道府県支部の活動の詳細につきましては、それぞれの支部からの報告をご覧ください。

ここで皆さんへのご報告が一つございます。同窓会の事務局長を長年にわたりお務めくださった土井榮次さんが、令和8年3月31日をもって退任されることとなりました。大変お世話になりました。これまでのご尽力に深く感謝申し上げます。

最後になりますが、同窓会会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

◇ 支部長からのメッセージ ◇

■ 広島県支部（鳴潮会）の様子について

広島県支部会長 中 川 哲

鳴潮会は1993年に最初の会を開き、毎年1回の総会および懇親会を重ねてきています。1997年、第5回の総会で6～10期修了の先輩方が中心となって規約を制定され、組織の土台づくりをされました。コロナ禍もあり4年間休止していましたが、3年前に再開し今年30回目の総会（懇親会）の開催となります。毎年6月の第4土曜日に定例の総会を開き、会員相互に交流し親睦を深めています。鳴門の思い出をはじめ、それぞれの職場での様子など情報交換を行い、職種や世代を超えた交流の場として、和気あいあいとした雰囲気です。会員の間で、グループLINEで輪を広げる試みを始めています。多くの広島県関係者の皆さんとつながっていければと考えているところです。

なお、令和8年6月27日土曜日18時から、広島市内にて新入会員歓迎会を開催しますので、多数の皆様の参加をお願いいたします。

詳細は、郵便にてお知らせします。

■ 久しぶりの開催をめざしております

きのくに鳴門会 坂 本 利 文 (S62修了)

平成24年8月に発足した「きのくに鳴門会」は、長らく活動を休止しておりましたが、このたび同窓会本部の力強いご支援のもと、昨年11月1日に「きのくに鳴門会再構築の協議会」を開催しました。当日は、大学から山下参与、横畠同窓会会長、土井同窓会事務局長の3名が来県され、県内からは「きのくに鳴門会」設立当初の役員の方々から現役院生まで8名が参集し、活発な意見交換を行いました。

今回の集まりを新たな出発点として、今年度（できれば今夏に）、総会・懇親会開催をめざして現在準備中です。県内同窓生の皆様には、是非お誘いあわせてご参会くださいますようお願いいたします。

(元：有田川町立鳥屋城小学校長

現：有田川町福祉保健部健康推進課子ども家庭センター相談員)

■ 高知県支部（よさこい鳴門会）

高知県支部会長 森 岡 學

平成25年、高知県支部（よさこい鳴門会）が設立され本年で13年目を迎えます。本支部会は毎年7月に開催しておりますが、平成30年は台風の影響により、また、令和2年・3年・4年は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催することができませんでした。しかしながら、令和7年7月19日（土）には、「よさこい鳴門会設立10周年記念講演及び祝賀会」を高知市で開催することができました。記念講演は佐古学長に「鳴教の目指す教員養成」と題してお話をいただきました。当日は田中副学長、山下参与、香西客員教授、横畠同窓会長、土井事務局長にもご参加いただきました。記念講演・祝賀会には県教育長をはじめ多くの来賓の皆様にご参加いただき、成功裏に終了しました。本年、7月には予定通り支部総会を開催し、高知県支部の更なる発展と充実に努めてまいりたいと考えております。

■ 笑顔と語らいに包まれて－鳴鯉会のひととき－

香川県支部会長 土 居 薫

令和7年6月28日、高松市玉藻町で、鳴門教育大学大学院同窓会香川県支部「鳴鯉会」を開催し、総勢40名が参加した。鳴は鳴門、鯉はうどん県香川の鯉鮓にちなむ、郷土色豊かな会名である。田中弘之先生の講演は学生時代の思い出や近況を織り交ぜた温かな内容で、会場は笑いと拍手に包まれた。懐かしい仲間が一堂に会し、会話は尽きることなく続いた。その場でLINEグループも立ち上がり、今後の交流への期待も高まった。食事を囲みながら語り合う時間はあっという間に過ぎ、互いの近況や教育現場での実践についても語り合い、絆の深さを改めて実感する有意義な再会となった。次回の再会も心から楽しみにしている。



■しまなみ鳴門会（愛媛県支部）

愛媛県支部会長 中 野 圭一郎

愛媛県支部は「しまなみ鳴門会」と称し、活動を開始してから10年が経過しました。原則として毎年8月に総会と親睦会を開催しています。令和7年度は8月30日（土）に松山市で総会と親睦会を開催しました。参加者が少なく寂しい総会及び親睦会となりましたが、役員改選の年と重ったことで、これまでの活動を振り返り見直しを図るとともに次への見通しを持つことができた充実した会となりました。令和8年度も8月に総会・懇親会、できれば講演会も開催したいと考えています。みなさま奮ってご参加ください。

「しまなみ鳴門会」がますます発展し、より一層の活性化を目指し取り組んでいきたいと思います。今後とも愛媛支部をよろしくお願いします。

■鳴門教育大学の益々の発展と卒業生の活躍を願って

関東支部会長 村 木 尚 生

この度、同窓会会報の原稿依頼を受けましたので、まずは令和7年度の活動報告と令和8年度の活動予定を報告させていただきます。

○令和7年度活動報告

- ① 6月20日（金） 関東支部総会役員打ち合わせ（新宿）
- ② 8月23日（土） 関東支部総会・講演会（新宿区立西新宿中学校）及び懇親会の実施

○令和8年度活動予定

- ① 6月下旬 関東支部総会役員打ち合わせ
- ② 8月下旬 関東支部総会・講演会及び懇親会（第4土曜日で調整）

子どもたちの豊かな成長を願い、日々奮闘されている先生方が、遣り甲斐と自信をもって子どもたちや保護者、地域の方々と向き合うことができるよう、同窓会会員の一人として今できることに努めたいと思っています。日本の教育は人と人、組織と組織をつなぎ直す「ネットワーク（結び目）の構築」を改めて考える時代を迎えています。鳴門の地からはすっかり脚が遠のいていますが、卒業生の活躍を心から応援しています。

■同窓生で教育を語ろう！

静岡県支部会長 寺 田 心

鳴門教育大学同窓会静岡県支部（鳴静会）は平成30年に設立し、翌年から、年1回のペースで「総会・講演会・情報交換会」を実施しています。令和7年度は8月23日に実施し、33名の参加者がありました。当日は、佐古秀一学長の挨拶から始まり、修了生2名による成果報告及び久我直人教授による講演を行いました。講演後は参加者とのディスカッションもあり、とても学びの多い時間となりました。その後は懇親会も実施し、大変盛り上がりました。

今年度は8月8日（土）に静岡市のクーボール会館で開催する予定です。詳細は、同窓会事務局から送付される案内を御確認ください。同窓生で教育を語ったり、美味しいお酒を飲みながら友好を深めたりしませんか。

■ 教育現場とともに

徳島県支部長 河 野 昭 一

同窓会徳島県支部は、全国に11ある同窓会支部の筆頭として、会員数約3,900人。卒業生・修了生全体の約33%をしめており、2017年（平成30年）に発足いたしました。

昨年から支部組織の活性化のため、教育臨床の場から2人の副会長をお願いいたしました。県内でご活躍の臨床心理士やスクールカウンセラー等のお声を支部に届けていただくことを目的とし、学校、教育行政、教育臨床等で活躍する人材が協働して、教育課題に向かう知見を生み出すことを狙ったものです。

役員一同、力を合わせて、母校 鳴門教育大学のさらなる発展と、現役の学生、院生、留学生、卒業生や修了生、相互のコミュニケーションの場となれるよう、努力してまいります。

皆さん方のお力添えを今後ともよろしくお願いいたします。

■ 世界遺産 勝連城趾のふもとで熱く学ぶ

沖縄支部会長 大 里 元 児

（うるま市立赤道小学校 校長）

沖縄支部沖縄鳴門会会長の大里と申します。今年度は同窓会事務局のご支援を頂き「うずしお教育講演会」を世界遺産勝連城跡麓にございます文化施設にて沖縄県内の教育行政・学校関係者の参加を得て開催することができましたのでご報告いたします。

演題 「子どもの幸せを生み出す信頼ベースの学級・学校づくり」 講師 久我直人 教授

「うるま市の児童生徒データ分析から見えてきたいじめ課題・被害要因等について」 報告 星 洸貴 さん

開催日時：令和8年2月21日（土）14：00～16：00

場 所：うるま市あまわりパーク歴史文化施設多目的室

参 加 者：鳴門教育大学同窓会関係者10名 県内学校教育関係者37名 計47名

講演後にも参加者の熱い意見交換の姿があり大変有意義な学びの機会となりました。

次年度も鳴門教育大学とのつながりを活かして支部活動をさらに活発に展開して参りたいと考えております。

■ 大阪府支部（浪速うずしお会）の現状と課題

大阪府支部会長 山 崎 英 志

大阪府支部は、2019（令和元）年8月17日に開催された「第7回鳴門教育大学うずしお講演会」の際に支部設立総会を行い会則を制定し活動を開始しました。しかしながら、その後、コロナ禍や他の要因もあり活動が休止状態となっていました。休止状態が続く中、2023（令和5）年に佐古学長先生から、「大阪府支部の活動を再開してほしい。」というお話があり、佐古学長先生にも来阪いただき、私を含め4名の役員で準備会を行いました。そのような経過を経て2024（令和6）年8月18日に大阪府支部の総会・懇親会を再び開催することができました。2025（令和7）年8月の総会・懇親会には、徳島県関西本部の北川本部長も出席してくださり、差し入れなども頂戴しました。なんとか年1回の総会・懇親会を再開させることはできましたが、名簿にある450名近い会員のネットワークを広げ参加者を増やしていくこと、役員の世代交代を図ることなどが課題です。今年度は8月16日（日）に開催を予定しています。大阪府だけでなく近畿圏からの参加も歓迎しますので、ご連絡をいただければと思います。

■ 新たな一歩、魅力ある東海支部へ

東海支部会長 三 浦 洋 子

東海支部は令和6年に設立したばかりで、少しずつ活動の基盤を整えようという段階にあります。

令和7年度には11月29日（土）には「いじめ BP プロジェクト愛知大会」を会員の学びの場として設定いたしました。「いじめ防止と関連する不登校への対応」というテーマのもと、様々な視点からのお話をうかがうことができただけでなく、大学の先生方や同窓生の皆さんと交流を深める貴重なひとときとなりました。同窓会を設立して改めて、ともに学び続けることのできる仲間がいることの素晴らしさを実感しております。

令和8年の活動は今後の検討とはなりますが、一人でも多くの会員の皆様にご参加いただけるような、魅力ある支部にしていきたいと思います。

.....

退任に寄せて

土 井 榮 次

最後の国立大学職員として、58歳で大学を退職後22年間事務局長を務めさせていただきました。

この間、同窓会では、青木弘亘さん、板東秀則さん、三牧壽夫さん、五宝友哉さん、横畠道彦さんの各会長、大学では、高橋啓さん、田中雄三さん、山下一夫さん、佐古秀一さんの各学長のもとで仕事をしました。また、支部の総会・講演会では、11支部全ての支部に参加させていただき、支部会長さんや、支部の皆様と交流を深めることができました。

それぞれで、大学の卒業生や修了生、留学生との出会いがあり、私自身大きく成長する機会をいただきました。3つの思い出を述べさせていただき退任のあいさつといたします。

全国学校教育実践活動コンテストは、同窓会と大学が一体となって、優れた教育実践活動に支援を行い、その成果を広く教育界にPRする事業でした。事業実施の10年間で延べ42名の先生方に教育支援金をお届けすることができました。子ども達に有効利用いただいたことで、多くの感謝の言葉をいただきました。

会報の発行には、多くの卒業生・修了生の皆様から、原稿をいただきましたが、中でも印象深いのは、2025年5月1日発行の災害を経験した方や防災教育の実践に力を注がれた方から原稿をいただいた防災教育の特集号です。阪神淡路大震災、東日本大震災、能登半島地震とどの地域にも本学卒業生・修了生の皆様が被災され、今もなお厳しい状況の中で力を尽くしている方がおいでになることも知りました。自分の無力さを痛感させられました。

ホームカミングデーでは、学生時代から、私の釣り船で鳴門海峡での釣りに同行した方、新入生歓迎会、国際交流パーティーを通じて友人になった皆様と絆を深めることができたことは、事務局長冥利につきます。

後任は、栗尾 勇さんにバトンタッチしましたので、皆様よろしく願いいたします。

卒業生・修了生の皆様が大学で過ごされたおなじみの食堂、喫茶店、酒店、理髪店、学生宿舎（お子様の阿波踊り）、ウチノ海公園、鳴門海峡の魚釣り場所等へご用のある場合はご遠慮なくご連絡ください。



土井さん、ありがとうございました。

鳴門教育大学学長

佐 古 秀 一

同窓会事務局として長年にわたりご尽力くださいました土井榮次さんが、このたびご退職を迎えられます。

土井さんには、平成16年から22年以上の永きにわたり、同窓会運営全般にわたって多大なるご貢献を賜りました。

組織体制の整備、同窓会名簿の整理・作成をはじめ、各地における支部組織の立ち上げ、さらにはその円滑な運営に至るまで、同窓会活動の基盤を築き、その発展を力強く支えてくださいました。今日の本学同窓会の姿は、まさに土井さんの献身的な取り組みのうえに成り立っているといっても過言ではありません。

また、こうした活動を通して、同窓会と大学との協力・連携関係が強固に築かれたことも、特筆すべきご功績です。

さらに、土井さんには、その親切で温かなお人柄によって、多くの同窓生や留学生を支えていただきました。常に相手の立場に寄り添い、きめ細やかにお力添えくださったことで、数え切れないほどの同窓生が励まされ、助けられてきました。

各支部の役員の皆さまからも、「支部会の開催や運営が円滑に進んだのは、土井さんの的確な支援と温かな助言があったからこそ」との声を聞くことが少なくありません。支部会の懇親会で、ともに杯を交わした思い出も心に残っています。土井さんが同窓生に気さくに声をかけられ、和気あいあいと語り合っておられる姿は、多くの人の記憶に刻まれていることでしょう。

本学同窓会の今日の発展は、土井さんの永年にわたる並々ならぬご尽力なくして語ることはできません。ここに改めて、そのご功績を讃えるとともに、心より深い感謝と敬意を表します。

これからもどうか、本学と同窓会の歩みを温かく見守っていただき、変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

土井さんの今後のご健勝とご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

本当にありがとうございました。

連 絡 事 項

1. 鳴門教育大学同窓会のホームページのご案内

同窓会の役員一覧、会則、同窓会・クラス会への後援援助金支給基準等の会計規則が掲載されています。同窓会のホームページは鳴門教育大学のホームページから入れます。

2. 同窓会へのご意見、ご要望がありましたら、ご連絡をお願いいたします。

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748

鳴門教育大学同窓会事務局長 栗 尾 勇

電 話：090-5279-1466 e-mail：nueaa@naruto-u.ac.jp